

ロボット導入 4割弱にとどまる

関心が高いが、費用対効果などを懸念 推進協・介護ロボット調査結果

全国個室ユニット型施設推進協議会（推進協、赤枝雄一会長）が会員施設を対象とする介護ロボット導入に関する調査を実施したところ、関心は高いものの、導入している施設は全体の4割弱にとどまり、導入していない施設が6割強を占めていることが分かった。藤村二郎介護保険委員長は「会員の間で関心は高いが、（導入する）費用の効果について確認が取れていない状況を示している」などと分析し、労働人口減少を見据えた情報収集の必要性を指摘している。2面に藤村委員長の解説を掲載。

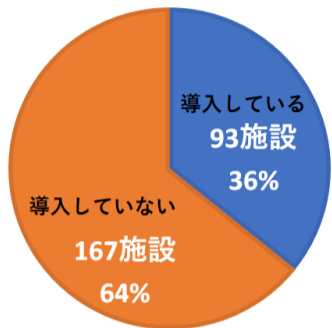
有効回答率7割高い関心

推進協は、30年度介護報酬改定で介護ロボットの「見守りセンサー」を活用した場合、夜勤職員配置加算の算定ができるようになったことを踏まえ、今後の研修や情報発信に役立てるため全会員施設（3月末時点、371施設）を対象にアンケートを実施した。※有効回答率70・1%と関心の高さを示した。

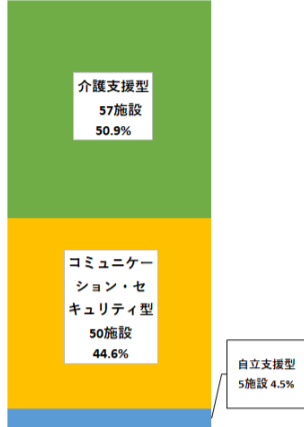
結果は、「介護ロボットを導入している施設」は93施設（36%）にとどまった。導入したロボットの種類（複数回答）は介護支援型が57施設で最も多く、コミュニケーション・セキュリティ型50施設、自立支援型5施設の順。

導入の理由は「介護負担の軽減のため」が最も多く、そのほか、「事故防止・安全確保」「補助金や助成金が利用できたから」「人材不足への対応」など。

介護ロボットを導入していますか？



導入した介護ロボットの種類



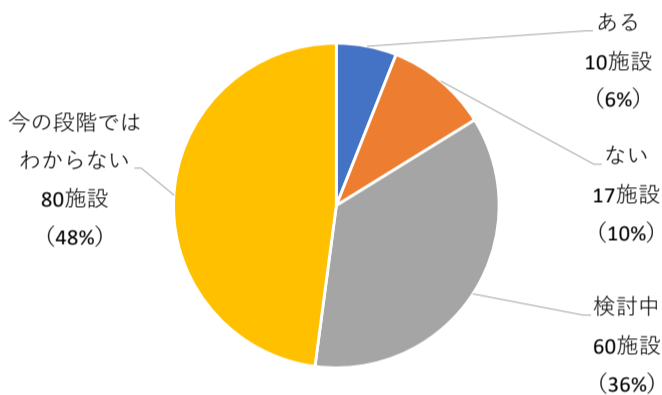
また、コミュニケーションロボットでは「入居者様のための癒しやレクリエーション活動のツールとして活用している」との回答があった。セキュリティ型では「職員の見守り業務の軽減と利用者様の安全確保」や「利用者様の生活改善のために、夜間睡眠状態を確認できる装置や離床センサーを導入している」という回答もあった。

「今の段階ではわからない」半数近く

一方、「導入していない」と回答した施設は167施設（64%）に上った。未導入の施設のうち「今の段階ではわからない」と答えた施設は80施設（48%）、「導入を検討中」60施設（36%）、「導入の予定はない」17施設（10%）、「導入の予定がある」10施設（6%）となった。

藤村介護保険委員長のコメント「調査結果から見えるもの」を2面に掲載。

介護ロボットを導入する予定はありますか



調査結果から見えるもの

喫緊に導入の時期

◎介護ロボット調査（解説）

藤村二郎介護保険委員長

介護ロボットについては、介護職員の確保の難しい状況に関連して各施設において非常に興味があることはアンケートから見えてきます。

それは、介護給付費分科会の議論と評価において注目を集め、且つ厚生労働省の購入設置の補助金の仕組みが後押しした結果だと思えます。

評価については、もう少し大胆な評価を想像していましたが、結果は当然ながら慎重なものになったと思います。それは、商品が限定的なことや実証実験がまだまだ整っていないこと、要するに費用とその効果について確認が取れていない状況であることが要因だと思えます。

他方、待っているだけでは課題解決はできないことも事実です。メッセージを出し、導入を促し、その結果を検証して次につなげることも、政策上不可避であることも皆様の理解の通りです。

「導入を検討中」と回答した36%の会員施設は「導入することで、負担軽減につながり、かつ人材の確保につながるのか。現時点で早急に判断すべきではない」といった意見が大半ではないでしょうか。

また、導入している施設においては、単純に加算の有無のみでの判断ではなく、現状の課題解決と将来を見据えた取組みであることも理解できます。

いずれにしても、労働人口減少が長期化するなかで、どのような方法が適切なのか情報収集の時期であることだけは確かなようです。今後、各メーカーが開発をして様々な提案がなされる事は予想されますが、どの様な効果があるか、その合理性の検証までは時間がかかるかも知れません。

よって、どこかでは疑問は持ちつつも、導入すべき時期は喫緊に訪れることになると思います。労働人口の減少の速度が我々の判断の速度と一致することはないと考えます。

